

平成 23 年度吉野熊野国立公園西大台利用調整地区のモニタリング評価について

西大台利用調整地区モニタリング調査のうち、平成 23 年度に実施した自然環境の状態に関する以下の調査項目について大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会森林生態系部会で検討した。

定点写真撮影によると、利用調整の運用後 4 年が経過したが、まだ植生に目立った変化は生じていないものの、人為による新たな植生の悪化も認められなかった。一方ナゴヤ谷では蘚苔類の回復などの期待された変化が現れ始めていることから、現状は過剰利用からの回復過程と考えられる。ただし、過去の人の利用により歩道が複線化した箇所等では、降雨や動物の影響により現在も洗掘が続いている、蘚苔類の回復が妨げられている。このまま状況が悪化するようであれば、対策が必要な段階に達するおそれがある。また、昨年度の希少植物調査では人為による影響は確認されなかつたが、今年度の調査では盗採とみられる希少植物の消失が 2 箇所で確認された。

なお平成 22 年度より、利用調整地区の指定以前からあった人の踏み分け道に簡易防鹿柵を設置し、シカの影響を排除した下での植生の回復状況のモニタリングを開始した。今年度の調査では、簡易防鹿柵内の調査区において、ヒメミヤマスマミレ等の被度の回復が見られるなどの植生の回復傾向が現れ始めている。

以上のことから、今後もモニタリングを継続し、評価することとする。なお、希少植物の盗採については、警察との合同パトロール等の対策を講じる予定である。

(参考) 西大台利用調整地区の年間立入者数の推移

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
年間立入者数（人）	5,096	5,246	10,590	1,156	1,123	1,535	1,666

※平成19年まではカウンターのデータ調査結果である。平成20年以降は指定認定機関がとりまとめたデータ（推定立入者数）である。（認定者数 - キャンセル数 = 推定立入者数）

■ 大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会森林生態系部会で評価した自然環境の状態に関する調査項目 (平成 23 年調査実施分)

【植物】

調査項目	目的と指標	評価概要
植生調査	利用調整による、歩道周辺等における踏圧や種子の持込み等による植物相への負荷の軽減度合いを把握することを目的とする。その指標として、土壤硬度、植被率、国外外来種の植被率に着目する。	定点写真撮影を行った。ナゴヤ谷では蘚苔類の回復が見られた。大台教会下、七ツ池、大和谷上では植生に大きな変化は見られず、植生の悪化も認められなかつた。
種子等持込み状況調査	利用調整地区内への国外外来種の種子の持ち込み状況を把握することを目的とする。その指標として、靴底等の泥に含まれる外来種に着目する。	植生調査、植生回復調査等において新たに外来種の侵入は確認されていない。

【植物】

調査項目	目的と指標	評価概要
植生回復調査	利用調整による、歩道周辺等における植生の維持および回復状況を把握することを目的とする。その指標として、草本層の植被率と高さに着目する。	<ul style="list-style-type: none"> Re-1～Re-6において定点写真撮影を行った。経ヶ峰の踏み分け道で落葉が堆積し、踏み分け道が解りづらくなっている他は、大きな変化はみられず、植生の悪化も認められなかった。 H22より人の利用による踏み分け道に簡易防鹿柵を設置し、シカの影響を排除した下での植生の回復状況をモニタリングする地点り人の利用による踏み分け道に簡易防鹿柵を設置し、シカの影響を排除した下での植生の回復状況をモニタリングする地点を2箇所（Re-7、Re-8）設置し、草本層の植被率と高さに着目し、植生の回復状況のモニタリングを実施している。H23は、簡易防鹿柵内の処理区においてヒメミヤマスミレ等の被度の回復が見られた。
希少植物調査	利用調整による、歩道周辺における希少植物の生育環境への負荷の軽減度合いを把握することを目的とする。その指標として、歩道沿いに分布する希少植物の生育状況に着目する。	希少な植物種として指標種に定めた9種について、分布状況、個体数、生育状況等について調査を実施した結果、今年度は2地点において、人為による盗採とみられる希少植物の消失が確認された。
蘚苔類被度調査	利用調整による歩道周辺等における地表性蘚苔類への負荷の軽減度合いを把握することを目的とする。その指標として、被度等の群落動態に着目する。	群落面積の減少も一部に見られるが、一時的と考えられる。影響の原因としては、これまでに拡大した歩道からの流水や積雪の崩れ及び豪雨による洗掘、落葉の堆積による被覆、シカによる搅乱が考えられ、利用調整地区設定以後の人の踏圧による影響と判別されるものはなかった。

【動物】

調査項目	目的と指標	評価概要
土壤動物調査	利用調整による土壤動物群集の生息環境への負荷軽減度合いを把握することを目的とする。その指標としてトビムシとササラダニに着目する。	※ H23は調査を実施していない。
鳥類調査	西大台における繁殖鳥類群集が良好な状態で保たれていることを把握することを目的とする。その指標として、鳥類の繁殖状況に着目する。調査は、自然再生推進計画のモニタリング調査のうち野生動物に関する植生タイプ別調査におけるテリトリーマッピング調査結果を活用する。	※ H23は調査を実施していない。

【総合評価】

- 西大台利用調整地区は、人為の影響による新たな植生の悪化は認められず、一部で蘚苔類の回復が見られるなど、過剰利用からの回復過程にある。ただし、過去の人の利用により歩道が複線化した箇所等では降雨や動物の影響等により洗掘が続いているため、蘚苔類の回復が妨げられている箇所もある。
- 盗採とみられる希少植物の消失が2箇所で確認されたことから、監視の強化などの対策が必要である。